

## 地域活動を支える個人・組織間のネットワーク形成要因 —人口減少と市町村合併に伴う生活圏域と生活サービス手法の再編—

準会員○花原 裕美子\*1

正会員 友清 貴和\*2 同 本間 俊雄\*2

### 5. 建築計画—5. 設計計画 建築計画

#### 地域活動 個人 組織 ネットワーク

#### 1. はじめに

##### 1-1. 研究の背景

地域社会において個人・組織は、地域に存在する課題の解決や目的とした活動の実現など、単独で解決できない場合に他の個人・組織などからの人的サポートや物的サポートを得るといった「つながり」を形成する。また、つながりが追加されることは個人・組織のあらたな活動を促すなど、社会においてどのようなつながりをもっているかということは個人・組織の属性やその活動内容に大きな影響を与えるといえる。

少子高齢化・人口減少時代において質の高い住民生活を守るためには、既存の行政サービスに代わる地域活動などの個人・組織間のつながりが大きな役割を果たすと考えられる。そこで本稿では地域社会における個人・組織間の関係性をノード（点）とリンク（線）から成立するネットワーク構造の視点から捉え<sup>註1)</sup>、ネットワークの成立する最小単位である、2 ノード間のネットワークを対象に、地域活動を事例として個人・組織間のネットワークの形成要因を明らかにすることを目的とする。

##### 1-2. 研究の構成

- ①対象地域における地域活動についてネットワークの形成実態を明らかにするために、どの個人・組織間にどのようなネットワークが存在しているのかについてヒアリング調査を行う。
- ②ヒアリング調査から得られた実態を図式化し整理することで、ネットワークや活動の主体となっている組織の特徴をよみとる。
- ③ネットワークの構造パターンを分類し、それぞれのパターンの特徴とそれがネットワーク形成にどのように影響しているかを事例より示す。

- ④今回の調査で得られた、個人や組織を結びつける要因について考察を行う。

##### 1-3. 調査の概要

調査は活動の行われている公民館や事業所などの施設で、その組織の活動過程について詳しい人を数人紹介してもらい、各事例につき調査員1人と調査対象者2～3名で2時間程度のヒアリングを行った。また実際に調査員が活動に参加することでその構成員にもヒアリングを行った。

#### 2. ネットワークの形成実態

##### 2-1. 対象事例の概要

本稿では対象地域である鹿児島県始良郡始良町S地区における地域活動の中から3事例を取り上げる。また、事例内容については表1に示す。

##### 2-2. ネットワークの形成実態とその特徴

図1は縦軸に時間、横軸に組織の種類を設定し活動にみられるネットワークの種類と、その形成を促した要因・意識を併せて記載したものである。ここでは活動主体となっている組織やネットワークの特徴について考察する。

##### ①水平と垂直

事例Aの中でサロンの形成しているネットワークは、自治会・自治会安全パトロール隊（以下

表1 調査対象事例の概要

A. いきいきふれあいサロン	社会福祉法人・社会福祉協議会からの誘達により設立した高齢者を対象とする交流活動を行うふれあいサロン。サロンは基本的に月に2回、地区内の公民館で、季節の行事や講習会などを行っている。独り暮らしの人が何かあったらすぐに助け合えるような関係づくりを目的としている活動であり、地域の民生委員、福祉アドバイザーによって活動が計画されている。
B. 自治会安全パトロール	自治会地区内の駐車場が荒れていた、ゴミが不法投棄や変質者などがでたりなどの事件が頻繁に起きていたため、自分たちで地域の安全を守ろうと地域住民で自主的に結成した自治会安全パトロール隊。安全・防犯への取り組みだけでなく、海岸の見回りをしながらゴミ拾い、高齢者の家への訪問などの活動も行っている。
C. 海の家改修による博物館とコミュニティ・カフェの開設	以前から行っていた海岸の清掃活動に参加してくれるボランティアが集まる場所、調査発表を行える場所教育拠点が欲しいとの考えから海の家を改修して博物館を開設。NPOのスタッフは地区内に居住し、自治会にも加入し地域の行事にも参加していることから地区内や海岸に散歩に来る人などに顔見知りも多く、今年の春に開設したコミュニティ・カフェにも多くの人が訪れている。

Network Formation Factor between Individuals and Organizations in Regional Activities.

-Reorganization of living range and life service technique corresponding to population decrease and consolidation of municipalities-

HANAHARA Yumiko, TOMOKIYO Takakazu, and HONMA Toshio

トロール隊とする)・子ども会などの地縁組織と社会福祉協議会・交番との2種類に分けられる。これはネットワークを形成する組織間に上下関係があるかを示し、地縁組織間のネットワークを「水平的なネットワーク」とすると他方は「垂直的なネットワーク」といえる。

②内部志向と外部志向

活動の志向性に着目すると、サロンが公民館に集まって、利用者間で活動するという「内部志向型」であるのに比べ、事例CのNPOは自分たち

の専門性を生かせる活動に対して外部の組織との多様なネットワークを形成する「外部志向型」の組織であることがわかる。

③類似と異質

事例Bにおけるパトロール隊は地域の安全を守るという活動内容から、それに類似した活動を行う警察署や消防署とのネットワークを形成している。一方で、事例CのNPOは自分たちの活動に対して助成してくれる行政組織という異なる組織とのネットワークを形成している。

リンクの種類		組織名										要因・意識			
事例名	組織名	県	町	警察署 交番	社会福祉 協議会	NPO	自治会	自治会パ トロール	サロン	子ども会	メディア	建設会社	その他		(L)
A. いまさらされる(サロン)	サロン設置の呼びかけ				■		■	■	■					a-1 社会福祉協議会からサロンの開催を促された。	[L1]
	公民館の改修				■		■	■	■					a-3 家にいると寂しいし不安/暇なので参加している。	[L6]
	活動をはじめ				■		■	■	■					a-4 知り合いの材木屋さんに安座で先でもらった。	[L6]
														a-5 専門的な改修はできないので頼んだ。	[L2]
														a-6 知人に電気屋がいたので修理を頼んだ。	[L4]
														a-7 地域住民に古くなった暖房機器を譲ってもらった。	[L1]
														a-8 サロンの活動場所の光熱費としての補助金。	[L4]
														a-9 地域での活動なので援助/自分たちも参加するし。	[L1]
														a-10 提出しない活動できないので/対協を把握。	[L1]
														a-12 利用者よりもサポーターとして参加したい。	[L5]
B. 自治会(交番)パトロール	人を集める				■		■	■	■					b-1 自治会でパトロール隊の参加を募った/危機感。	[L4]・[L5]
	活動の多様化				■		■	■	■					b-2 自治会のいつものメンバーなのでなんでも言い合える。	[L2]
	活動の定着				■		■	■	■					b-3 出会った人には声をかけるなど活動をアピールする。	[L1]
														b-4 民生委員がパトロール隊に所属しているため、高齢者の自宅を訪問し、話をしたりする。	[L1]
														b-5 活動の範囲を自治会内でなく小学校区まで広げた。	[L1]
														b-6 子どもたちにも意識してもらうために一緒に活動する。	[L1]
														b-8 交番の人が自分たちの見回り範囲を任せられるために。	[L1]
														b-9 活動が認められ警察署からモデル地区に指定された。	[L1]
														b-10 いろいろな活動ができるようになり出前してくれる。	[L1]
														b-12 顔見知りなのでお願いし/拒否した人もいる。	[L2]・[L4]
C. NPOの活動	海岸の清掃活動													c-1 海岸が汚いので清掃活動を始める/調査もかねて。	[L4]
	事務所移転													c-2 インターネットでボランティアの募集について知った。	[L2]
														c-3 地域に住んでいる住民として自治会に加入した。	[L1]
														c-4 近所の人たちと話した。	[L1]
														c-5 県の助成情報が提示された(広報誌・インターネット)。	[L1]
														c-6 どうにか買ってもらえないかと町に相談し続けた。	[L1]
														c-9 近所地帯高齢者がなくなったので顔の面影を見てあげて欲しいと近所の人に頼まれた。	[L2]
														c-10 地域に若い人がいないのでスタッフが2年前のよう。	[L2]
														c-11 交渉を続けたら発掘の人が許可くれた。	[L3]
														c-12 個人的に知っている建設会社の人に頼んだ。	[L8]
													c-13 ボランティアの人の中にペンキ会社の社長を知っている人がいた。	[L3]	
													c-14 インターネットの掲示板を見てペンキ塗りを手伝い。	[L6]	
													c-15 海の散歩をしていてたまたま手伝った。	[L6]	
													c-16 地域のための博物館として一部は免除してもらった。	[L6]	
													c-17 近所のお兄さんのような感じで送っている。	[L6]	
													c-18 リンクしていれば自分たちを知ってくれる人がいる。	[L6]	
													c-20 自分たちの活動を知ってもらうために/趣味でもある。	[L6]	
													c-21 夕食の準備をしている妻に追い出されて寝つらくなる。	[L6]	
													c-23 知人に誘われた。	[L6]	

図1 対象地域の活動にみられるリンクの種類とその形成要因

### 3. ネットワークを形成する個人や組織

ネットワークの形成に関わる要因として個人や組織の存在やその行動が考えられる。ここでは、分析の対象である 2 ノードを [組織-組織] [個人-個人] [組織-個人] の 3 形態に分類し、構成要素とすることで、図 1 でえられたネットワークの形態を 8 つにパターン化する (図 2、図 3)。そこから、得られた特徴を以下に示す。

#### ①ふたつの組織に所属する個人の存在

【L4】は「ふたつの組織に所属する個人がいる」というもので、サロンとパトロール隊に所属していることで a-23 のように、その活動を補完するようなネットワークを形成している。また、a-22 のように、サロンとはかかわりのないパトロール隊の人をその活動に招くなど、ふたつ以上の組織に所属している個人はその組織間の橋渡しの役割を果たすと考えられる。

#### ②ネットワーク形成のキーパーソン

①に記述した【L4】、また【L6】【L8】にはネットワークを形成する重要な要素として、ノード間をつなぐ個人、キーパーソンの存在がある。このキーパーソンは自治会長やパトロール隊長などといった多くの地域住民を見知っているとといったネットワークの多い個人が考えられる。実際に自治会長などはキーパーソンの役割を果たしている

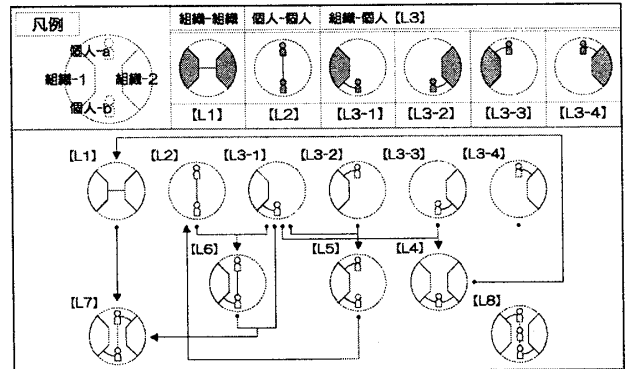
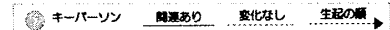


図 2 ネットワークの形態分類

構成要素	構造パターン	事例	変化(上段)とその影響(下段)	ネットワークの形成要因
【L1】	【L1】	既存の[組織-組織]ネットワークの存在 事例) A-1, A-8, A-10, A-20, A-21, B-6, B-10, B-6, C-11, C-16	変化なし 過去に形成しているネットワークであるので、互いの組織の活動が補完しているという点から、話し合いのスムーズになったなどの影響がある一方で、その影響がまったくないものもある。また地域組織間では行えないような活動に対して、補助金であたりを補完するようなネットワークが形成される。	a-10 意見を提出する人の特定性 →提出は福祉アドバイザーでなければいけない 個人属性 a-8 経済的援助 b-10 意見の買出し 組織間性の補完 b-6 子どもたちにも意識してもらう 認知
【L2】	【L2】	既存の[個人-個人]ネットワークの存在 事例) A-6, A-22, B-4, B-12, C-4, C-9, C-10	変化なし 何らかのネットワークを形成したことがある人であれば色々と結びやすい。こちら側の性格などについても知っているし、信頼している。	c-10 地域に若い人がいないので頼りにされている。 個人属性の補完 信頼関係 b-12 知っている人なので安心する。 顔見知り 安心感
【L3】	【L3】	[所属関係ネットワーク]の存在 事例) A-7, A-14, A-17	変化なし 所属している組織に対してその活動の手助けになるような行動をとる。活動のために希望する機器を提供したり (A-7) DVDを貸し出ししたりしている(A-14)。 サロンの活動が多様化になり、経済的な面で助かった。また自分たちで色々な活動することから利用者が増えた。	a-7, a-14 所属組織へのモノの提供 所属感 好感
【L3-1】 【L3-2】	【L4】	[ふたつの組織に所属する個人]の存在 事例) A-9, A-23, B-2, B-12, C-3 異なるふたつの組織に所属している。	高齢者サロンとパトロール隊のふたつの組織に加入している人がいることで、サロンの活動をパトロール隊が手伝うなど、組織間で活動を補完し合えるネットワークが形成された。 それにより今まで異なる組織に所属していた他人であった個人のネットワークが形成された。	組織間で不足している部分を補い合う。 組織間性の補完 顔見知り 信頼関係 安心感
【L3-1】 【L3-3】	【L5】	[組織に所属する個人]-[同じ組織に所属する個人] 事例) A-13, A-24, B-2 同じ組織に所属しているということ、話をしたことはなければ知っている人などがいる。	サロンなどの活動では「同じ組織に所属していないから話しかけられなかったような人と話しかけられなかった」。 その人とは日常生活でも仲良くしている。	同じ組織に属しているという共通意識 所属意識 共通意識 a-13 足が不自由で遠くまで歩けない 個人属性 地域距離感
【L2】 【L3-1】	【L6】	[組織に所属する個人]-[個人] 事例) A-4, A-5, A-16, C-16, C-23 知り合いに自分の所属していない組織に所属している人がいる。	サロンに所属している知り合いの話を聞いてサロンに参加してみた。 サロンなどの活動では「同じ組織に所属していないから話しかけられなかったような人と話しかけられなかった」。	a-16 利用者の話を聞いたことによる参加してみようという意識の変化 情報共有 興味
【L2】 【L3-1】 【L3-4】	【L7】	[組織に所属する個人]-[異なる組織に所属する個人] 事例) B-16 異なる組織に所属している知人がいること。	メディアによるNPOの取材のときに、普段は地域以外で活動することのないパトロール隊についてみんまに知ってもらいたい機会にということで、取材をした。そのことでパトロール隊が知られるようになった。	b-16 いつちも地域で元気に活動しているのでセッパからだからみんなに紹介したい 情報共有 好感
	【L8】	[個人と個人をつなぐ第3の個人]の存在 事例) C-13 組織に所属する個人と、異なる組織に所属する個人を知っている第3者。	ベンキ達を手伝ってくれた人の知り合いにベンキ会社の社長がいたので紹介してもらい、ベンキ会社の社長と仲良くなった。 ベンキ会社社長を紹介してくれたことにより、ベンキを雇ってもらえるようになった。助成金からの活動費用が払えられた分、自分たちの活動に活用することができた。	c-13 自分の持つネットワークの提示 →そのネットワークの必要性に気がつく 好感 認知

図 3 構造パターンの分類



が、事例を見ると一概にネットワークの多さがキーパーソンになりうる条件とは言い切れない。例えば、c-15におけるキーパーソンは事例Cの海の家の改修に手伝いに来ていた地域外の人であり、前者に比べてネットワーク量は少なく地縁関係もない。しかし「ペンキ会社の社長を知っている」という他の人がもっていない「異質な」ネットワークをもっていたことがキーパーソンとなった要因であると考えられる。

### ③組織に対する個人の所属意識の存在

【L3】～【L8】はすべて構成要素として所属関係ネットワークを含んでいる。例えば、【L3】a-14は、「サロンの利用者が自分たちで多様な活動をした」と思い、自分が趣味で持っているDVDをサロンに貸し出した」ものである。このように個人の行動には、単なる個人の好意だけでない「組織のために」といったような組織に対する所属意識が存在しているといえる。

## 4. 個人や組織を結びつける要因

ここでは、図3の構造パターンの中にみられた、個人や組織を結びつける要因について考察する。

### ■動機的要因

ネットワークを形成する要因として、まずは活動を行うために解決すべき問題に対する動機的要因が存在する。それは「地域の治安が悪い」「施設が狭い」といった問題などであり、これらを「認知」することで個人や組織はその解決のために、補完的なネットワークを形成すると考えられる。

### ■個人的属性

【L-5】のa-13「足が不自由なのでサロンのときには車で送迎を行う」は足が不自由であるという個人属性に基づいている。個人属性とは性別、年齢、職業などを指し、これは社会における位置関係を示すものでもあるといえる。

### ■組織的属性

個人属性に対して組織の属性とはその人数、規模、活動分野、経済的状况などであり、たとえば、【L6】a-5「専門的な改修はできない」などという組織属性が要因になると考えられる。

### ■意識的要因

【L8】のc-13「ペンキ会社の社長を知っていた」は、キーパーソンとなる個人が、そのことを言わなければ形成されなかったネットワークである可能性が高い。持っているネットワークを提示するかどうかは個人の意識にゆだねられるものであり、ネットワーク形成が個人の好意や信頼関係などの意識的要因によって左右されるといえる。

### ■地理的距離

【L2】のc-4「近所の人たちと親しくなった」は意識的要因も大きく関わっていると考えられるが、近くに住んでいるというノード間の地理的距離もひとつの要因であるといえる。

## 5. まとめ

本研究は1地域における地域活動のみを対象としたものであり、結果の普遍性については限界があるが、得られた知見を以下に示す。

- 1) ネットワークの形成にはキーパーソンといわれる個人の存在や、個人や組織がどのようなネットワークの構造をもっているかが重要であることが明らかになった。また、組織に所属する個人の行動を決定するものとして、所属関係ネットワークに起因する所属意識が存在していることも明らかとなった。
- 2) 個人や組織を結びつける要因として、ネットワークの形成を動機づける動機的要因、ノードが持つ性質である個人的属性や組織的属性、ノードが他のノードに対して抱く安心感・信頼感などの意識的要因、さらにノード間の位置関係を示す地理的距離などが考えられる。

今後は、地域生活サービスのネットワークモデルの構築に向け、今回の研究で得られたような要因を更に抽象化、数量化することが求められる。

### 【付記】

本研究は、平成20年度科学研究費基盤研究(C) (課題番号20560574)の補助を受けたものである。

### 【註記】

註1) 本稿は地域社会におけるネットワークを探ることで、グラフ理論により地域生活サービスモデルを構築し、シミュレーションすることを目指す研究の初段階として位置づけられるものである。

\*1 鹿児島大学建築学科  
\*2 鹿児島大学 教授・工博

Student, Dept. of Architecture, Kagoshima University  
Prof., Dept. of Architecture, Kagoshima University, Dr. Eng.